（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2191600010		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームみずなみ（ききょう棟）		
所在地	岐阜県瑞浪市西小田町3-122		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2191600010-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566－1
訪問調査日	平成30年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームを施設ではなく家庭と捉え、引き続きスタッフ全員で共有しケアに当たらせて頂いております。「普通の暮らしを当たり前」の思いを大切に、特別な事をやっているわけでもありませんがご利用者様ひとり一人の生活のリズムやご利用者様の年齢に合わせた生活の支援をさせて頂いております。MCS19期の御家族様満足度アンケートでは有り難い評価を頂戴致しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者の「したいこと、できること」を把握しており、実現できるように見守りを基本にして支援している。敢えて「手を出さない支援」に徹し、利用者の残存機能維持に努めている。また、強制や無理強いはせず、利用者のペースを最優先に支援している。

ユニット間で自由に交流する新たな人間関係もできており、好きな演歌歌手のファンクラブの会員を継続し、今でも友達と電話連絡をしている利用者もいる。施設長は各会議の他、常日頃から職員と話をして意見・要望を聞き取り、問題解決に努めている。職員の定着率もよく、安定した介護サービスが提供できていることは、法人アンケート結果の家族満足度を含む総合順位が、全国252ヶ所中の第4位となった事で証明されている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、運営理念を唱和して職員全員で共有し、地域との関わりを多く持ち御利用者様が安心して生活できるよう支えております。	法人の運営理念に加え、「あふれる笑顔」をホーム独自の理念としている。利用者を第一に考え、見守りを基本としている。家族・職員とともに、笑顔で自然体で安心して生活できる支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から声かけをして下さいます。今年も地域の秋祭りには3基のお神輿が来訪の予定で　子供たちもホーム内に来て楽しませてくれます。	秋祭りでは舞踏が披露されるほか、今年は利用者の親族が日本舞踊を披露する予定となっている。保育園児の慰問及び中学校からの職業体験受入れ等、利用者と地域のつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年9月に認知症啓発活動に御利用者様と一緒に参加致しました。また、「ふまねっと」を釜戸コミュニティセンターで行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告、提案をし参加者からの質問・意見・要望を聞いております。また、評価結果を報告し、意見を頂くようにしております。	地域包括支援センターを含め行政、民生委員が参加し、利用者のいるリビングで運営推進会議を年6回行っている。民生委員が防災担当であり、災害時の地域協力の話し合いもできている。	利用者やホームの状況を考慮し、家族からの意見・要望を聞き取り、サービス向上に反映するためにも、運営推進会議への多くの利用者・家族の参加が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録、事故報告書の提出を行い、定期的に事業所の状態をお伝えし、施設見学の対応や入居者の紹介も頂いています。認知症サポーター養成講座にも参加させて頂いております。	今年は地域包括支援センター主催の介護イベントで、利用者が職員とともにウォーキングに参加した。市の認知症事業に関する街頭活動でチラシを配付する等、積極的な市町村との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社としてマニュアルがあり、身体拘束についてカンファレンスや申し送りで再確認をしております。身体拘束廃止委員会も発足致しました。	法人の年3回の研修の他、ホームの身体拘束委員会を中心に、事例検討から職員間で話し合いを行い、身体拘束の無いケアの認識を深めている。安全を考慮し、利用者の「やりたい事」ができるような支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で定期的に研修を行い虐待行為についての認識を常に確認し、虐待防止についての周知徹底を図っております。「絶対に行ってはいけないこと」として取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で勉強会を行い職員の理解を深めるようにしております。関する研修は年1回実施しています。」		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、特に料金関係、起こりうるリスク、事業所のケアに対する考え方や取り組み（医療連携体制等）について詳しく時間かをけ説明し、同意を得るようにしております。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者の不安や希望を理解し、思いに添えるようにユニットごとに話し合いの機会を設けております。	家族の来訪時や電話連絡時に、意見や要望の聞き取りを行っている。「普段の様子がわからない」との意見から、職員が自筆で利用者の普段の様子をお便りで伝える等、実施・改善も行っている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを月1回行い、意見を聞く場にしております。また、日頃からコミュケーションを図るように声かけを行い、職員の要望や意見を聞くようにしております。	管理者は、日常の業務の中で職員の意見・要望ややりたいことを聞き取り、実践に向けた対応を行っている。管理者と職員の信頼関係の良さは、職員の定着に繋がり、理念に沿ったサービス提供に表れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は社員の日ごろの努力や実績勤務を把握し、表彰や賞与、努力への評価を行っており、向上心を持って働ける配慮をしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会の情報を職員に提示し、積極的に参加してもらい、得られた情報をカンファレンス等報告しております。また、介護福祉士資格取得の支援制度等が有ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほぼ毎月、事業所や施設訪問をさせて頂き交流を行っております。他の施設の見学を通じて意見の交換を行いサービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階においては、御本人にお会いして心身の状態や思いを受け止める声かけに努め、より以上の細かい部分までの気配りをし御本人の入居の意思を必ず確認して、不安の軽減を図る工夫をしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御相談される御家族の思いを出来るだけ理解し、ホームとして対応について事前にしっかり話し合う時間を設けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、会社組織としてできることの可能性について提案させていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい笑顔を引き出し有意義な生活を送って頂けるよう努めています。女性の方は掃除、洗濯物等、スタッフと毎日の生活の一部として行っておられます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様にしかできない事をを理解して頂き、生活の中での出来事や相談などで情報の共有に努めています。なかなか面会にきて頂けない家族様には電話やお手紙で様子をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所さんで入居しておられる方もあり、「○○ちゃん」と呼び合い、昔のままのお付き合いを続けておられるご利用者様もいらっしゃいます。ユニット間を行き来しておられます。	入居前から利用している美容院の利用や、来訪した友人と外食に出かける利用者がいる。入居者同士がご近所さんで、ホーム内で交流を継続している他、ホーム内での新たな関係構築にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者からお話しを伺ったり、他の御利用者様を交えて楽しむ時間や、気の合うご利用者同士で過せる時間を作るよう配慮しています。。性格上関係づくりが困難な方には職員が対応しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご利用中に築いた関係性を大切にしながら、長期に継続的なかかわりを行っております。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望も違うので難しい点はありますが、なるべくその方の思いを皆で確認し希望に添えるよう努めています。	利用者の詳細な見守りを基本とし、利用者が「やりたいこと」を見つけられるようにしている。把握した意向や思いは、カンファレンスや日常業務の中で職員間で共有し、どうすればできるようになるかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお話を伺うようにし、得られた情報は全体共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者一人ひとり残存機能を活かすことを心がけ、その人の持っておられる強みを活かした働きかけおこない、ご利用者それぞれの把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者がその人らしく暮らせるよう御利用者やご家族の要望を聞きユニットスタッフと共にカンファレンスで意見交換を行い介護計画作成にいかしております。	月に1回モニタリングを行い、定期的に（短期では3ヶ月、長期でも6ヶ月毎に）見直しを行っている。担当者会議では、随時状態の変化に応じて見直しを行い、個別性の高い計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員がそのつど御利用者個々のケア記録に残しており職員が常に確認できるようにして記録共有を徹底しております。又記録で本人の状況の把握を行い介護計画の見直し、評価を実施しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者や御家族の状況に応じ通院や送迎など必要な支援を臨機に対応し、個々の安心感を高めるよう努めております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように、消防、民生委員、ボランティアの方々と会食やお茶、行事等の参加を通じて地域交流を深めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医や、以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、御家族と協力し通院介助や訪問診療の対応を行い、複数の医療機関と連携をとりつつ支援しております。	かかりつけ医は、入居前から主治医、ホーム協力医、往診医それぞれ利用者の意向で受診している。目標達成計画の「入居前からの主治医との連携」については、看護士中心の対応によって改善されてきている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、医療連携体制のもと24時間、御利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をおこなっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーや口頭申し送りで御利用者の支援方法や情報を医療機関に提供し、頻回に職員が見舞うようにしております。御家族や医療機関と情報交換し回復状態を踏まえつつ速やかな退院支援をおこなっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要化した場合における医療体制指針を作成し、入居契約時に説明を行っております。又、状態変化に伴いそのつど御家族、医師、看護師で話し合いをおこなっております。	重度化した際の対応について、入居時に利用者、家族に説明している。利用者家族の意向・要望も考慮し、看取り対応に関する職員研修も定期的に行っている。看取り対応への課題・問題点も洗い出し、対応の検討も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が年に一回消防署主催の救命救急講習会に参加しています。又、夜勤帯の緊急時対応についてのマニュアルを作成し、周知徹底を図っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回の消防訓練と地震発生時の避難訓練、夜間帯避難訓練を随時行っております。地域の協力体制については運営推進会議や民生委員を通して自治体に協力をお願いしております。	年2回（うち1回は夜間想定）の避難訓練を行い、消防署から指導・助言を受けている。AEDの使用法や救命救急訓練も消防署員の講師で実施している。災害時での地域協力は、民生委員を通して行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルがあり、入居時に個人情報についての契約書を頂いております。年1回の研修も行い、特に言葉使い、態度に注意するようカンファレンスで話し合っております。	権利擁護や接遇に関する研修を定期的に行い、強い口調や強制をしない支援に努め、職員同士が気づいた時点で注意し合っている。特に女性利用者に対しては、排泄や入浴時の羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者が思いや意思を決定しやすくなるよう職員一人一人が御利用者の表情を読み取り関わりを多く持つよう心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者一人ひとりの態度や思いに配慮しながらその人のペースを大切に、その人がしたいこと出来る事を基本に支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に御本人の意向できめていただき自己決定のしにくい御利用者には必要時声かけ配慮をおこなっております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者と共に盛り付けや後片付けを行い、職員と御利用者が同じテーブルを囲んで楽しく、食事できる雰囲気つくりを大切にしております。一部の方は毎日後片付けをされます。	調理専門職員が、バランスの良い美味しい料理を提供している。気の合う利用者同士がテーブルを囲み、談笑しながらそれぞれのペースで食事を楽しんでおり、力量に応じて盛付けや下膳・片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取状況を毎日チェックし職員全員が共有できるようにしております。管理栄養士による献立を基本としております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い御利用者にあわせて必要な支援を行っております。就寝時は義歯をお預かりし洗浄剤につけるようにし清潔を保っております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のわからない御利用者は時間や様子を見計らってトイレにお誘いする事により快適に排泄して頂けるように支援しております。夜間は排泄パターンと睡眠のサイクルを考慮しチェックをおこなっております。	尿意の分からない利用者に対し、適宜、声掛けや誘導により自立排泄できるよう支援している。夜間は、排泄パターンと睡眠のサイクルを考慮し、声掛けすることで自立排泄ができるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	大豆製品、寒天、バナナ等の繊維質の多い食品を積極的に摂り御利用者ひとりひとりに合わせ薬に頼らない便秘対策をしています。10年前より毎日、ヨーグルトを提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の予定は決まっているが、そのつど御利用者の御希望に柔軟に対応しています。	週3回の入浴機会があり、入浴拒否の利用者に対しては声掛けの言葉を工夫し、無理強いせずに入浴を促すようにしている。マイシャンプーやマイ石鹸、柚子や菖蒲等も利用し、入浴が楽しめるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は散歩や体操を外で行い、体内のリズムを整え活動性のアップを図っております。又、御利用者の体調や希望を参考慮してゆっくり休息が取れるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は御利用者に手渡しや口に入れる等、確実に服用されたかの確認をし、状態に変化が現れた場合は速やかに看護師に報告し医師の指示を仰いでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事支援を含めて得意な分野で、お願いできそうな事をして頂き、感謝の気持ちを必ずお伝えしております。外食や、ホームでのお弁当など楽しんで頂ける事を御利用者と相談しつつ行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御利用者の希望に応じ、外食、買い物、ドライブ、行事への参加等、行っております。 又、家族旅行、ご自宅や親戚へも行って頂けるよう配慮しております。	外が好きな利用者が多く、散歩や買い物等日常的に外出している。ホーム全体行事では花見や観光施設へ行き、家族協力による一時帰宅や墓参り等もある。玄関前にはベンチとパラソルを置き、いつでも外気浴ができる環境となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、ホームにて管理していますがご家族様の意向により一部の方に限りますが買い物時や外出時に所持、支払をしておられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を書いていただき御家族や知り合いにお出しする支援をしております。携帯電話も使用しておられる方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルにを基本として、ホーム内の飾りつけは御利用者と相談し御希望にあわせて職員と共に制作し季節感の感じられる工夫をしております。	居間は華美な装飾や掲示を避け、シンプルで季節感を感じられる工夫をしている。利用者はカラオケやパズルを楽しみ、掃除の時間には利用者もモップ掛けを手伝い、清潔感を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや廊下に椅子を置き、居心地の良いくつろげる空間を作っております。仲良しの利用者様の会話の場所でもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベッドなど使い慣れたものをお持ち頂き、馴染みの空間で過ごしておられます。お孫さんの写真を貼って楽しみに話をして下さいます。	入居前に使用していた調度品やテレビを持ち込み、自分の部屋として利用している。好きな演歌歌手のCDやポスターに囲まれて生活している利用者もいる。転倒防止のため、布団を利用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者一人一人の理解力を判断しつつ、不安なく生活できるように状況に応じてその都度環境設備に努めております。わかりやすいようにシンプルさも考慮しております。		

（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2191600010		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームみずなみ（れんげ棟）		
所在地	岐阜県瑞浪市西小田町3-122		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2191600010-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566－1
訪問調査日	平成30年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームを施設ではなく家庭と捉え、引き続きスタッフ全員で共有しケアに当たらせて頂いております。「普通の暮らしを当たり前」の思いを大切に、特別な事をやっているわけでもありませんがご利用者様ひとり一人の生活のリズムやご利用者様の年齢に合わせた生活の支援をさせて頂いております。MCS19期の御家族様満足度アンケートでは有り難い評価を頂戴致しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、運営理念を唱和して職員全員で共有し、地域との関わりを多く持ち御利用者様が安心して生活できるよう支えております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から声かけをして下さいます。今年も地域の秋祭りには3基のお神輿が来訪の予定で　子供たちもホーム内に来て楽しませてくれます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年9月に認知症啓発活動に御利用者様と一緒に参加致しました。また、「ふまねっと」を釜戸コミュニティセンターで行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告、提案をし参加者からの質問・意見・要望を聞いております。また、評価結果を報告し、意見を頂くようにしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録、事故報告書の提出を行い、定期的に事業所の状態をお伝えし、施設見学の対応や入居者の紹介も頂いています。認知症サポーター養成講座にも参加させて頂いております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社としてマニュアルがあり、身体拘束についてカンファレンスや申し送りで再確認をしております。身体拘束廃止委員会も発足致しました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で定期的に研修を行い虐待行為についての認識を常に確認し、虐待防止についての周知徹底を図っております。「絶対に行ってはいけないこと」として取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で勉強会を行い職員の理解を深めるようにしております。関する研修は年1回実施しています。」		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、特に料金関係、起こりうるリスク、事業所のケアに対する考え方や取り組み（医療連携体制等）について詳しく時間かをけ説明し、同意を得るようにしております。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者の不安や希望を理解し、思いに添えるようにユニットごとに話し合いの機会を設けております。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを月1回行い、意見を聞く場にしております。また、日頃からコミュケーションを図るように声かけを行い、職員の要望や意見を聞くようにしております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は社員の日ごろの努力や実績勤務を把握し、表彰や賞与、努力への評価を行っており、向上心を持って働ける配慮をしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会の情報を職員に提示し、積極的に参加してもらい、得られた情報をカンファレンス等報告しております。また、介護福祉士資格取得の支援制度等が有ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほぼ毎月、事業所や施設訪問をさせて頂き交流を行っております。他の施設の見学を通じて意見の交換を行いサービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階においては、御本人にお会いして心身の状態や思いを受け止める声かけに努め、より以上の細かい部分までの気配りをし御本人の入居の意思を必ず確認して、不安の軽減を図る工夫をしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御相談される御家族の思いを出来るだけ理解し、ホームとして対応について事前にしっかり話し合う時間を設けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、会社組織としてできることの可能性について提案させていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい笑顔を引き出し有意義な生活を送って頂けるよう努めています。女性の方は掃除、洗濯物等、スタッフと毎日の生活の一部として行っておられます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様にしかできない事をを理解して頂き、生活の中での出来事や相談などで情報の共有に努めています。なかなか面会にきて頂けない家族様には電話やお手紙で様子をお伝えしています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所さんで入居しておられる方もあり、「○○ちゃん」と呼び合い、昔のままのお付き合いを続けておられるご利用者様もいらっしゃいます。ユニット間を行き来しておられます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者からお話しを伺ったり、他の御利用者様を交えて楽しむ時間や、気の合うご利用者同士で過せる時間を作るよう配慮しています。。性格上関係づくりが困難な方には職員が対応しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご利用中に築いた関係性を大切にしながら、長期に継続的なかかわりを行っております。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望も違うので難しい点はありますが、なるべくその方の思いを皆で確認し希望に添えるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお話を伺うようにし、得られた情報は全体共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者一人ひとり残存機能を活かすことを心がけ、その人の持っておられる強みを活かした働きかけおこない、ご利用者それぞれの把握に努めています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者がその人らしく暮らせるよう御利用者やご家族の要望を聞きユニットスタッフと共にカンファレンスで意見交換を行い介護計画作成にいかしております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員がそのつど御利用者個々のケア記録に残しており職員が常に確認できるようにして記録共有を徹底しております。又記録で本人の状況の把握を行い介護計画の見直し、評価を実施しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者や御家族の状況に応じ通院や送迎など必要な支援を臨機に対応し、個々の安心感を高めるよう努めております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように、消防、民生委員、ボランティアの方々と会食やお茶、行事等の参加を通じて地域交流を深めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医や、以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、御家族と協力し通院介助や訪問診療の対応を行い、複数の医療機関と連携をとりつつ支援しております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、医療連携体制のもと24時間、御利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をおこなっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーや口頭申し送りで御利用者の支援方法や情報を医療機関に提供し、頻回に職員が見舞うようにしております。御家族や医療機関と情報交換し回復状態を踏まえつつ速やかな退院支援をおこなっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要化した場合における医療体制指針を作成し、入居契約時に説明を行っております。又、状態変化に伴いそのつど御家族、医師、看護師で話し合いをおこなっております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が年に一回消防署主催の救命救急講習会に参加しています。又、夜勤帯の緊急時対応についてのマニュアルを作成し、周知徹底を図っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回の消防訓練と地震発生時の避難訓練、夜間帯避難訓練を随時行っております。地域の協力体制については運営推進会議や民生委員を通して自治体に協力をお願いしております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルがあり、入居時に個人情報についての契約書を頂いております。年1回の研修も行い、特に言葉使い、態度に注意するようカンファレンスで話し合っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者が思いや意思を決定しやすくなるよう職員一人一人が御利用者の表情を読み取り関わりを多く持つよう心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者一人ひとりの態度や思いに配慮しながらその人のペースを大切に、その人がしたいこと出来る事を基本に支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に御本人の意向できめていただき自己決定のしにくい御利用者には必要時声かけ配慮をおこなっております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者と共に盛り付けや後片付けを行い、職員と御利用者が同じテーブルを囲んで楽しく、食事できる雰囲気つくりを大切にしております。一部の方は毎日後片付けをされます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取状況を毎日チェックし職員全員が共有できるようにしております。管理栄養士による献立を基本としております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い御利用者にあわせて必要な支援を行っております。就寝時は義歯をお預かりし洗浄剤につけるようにし清潔を保っております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のわからない御利用者は時間や様子を見計らってトイレにお誘いする事により快適に排泄して頂けるように支援しております。夜間は排泄パターンと睡眠のサイクルを考慮しチェックをおこなっております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	大豆製品、寒天、バナナ等の繊維質の多い食品を積極的に摂り御利用者ひとりひとりに合わせ薬に頼らない便秘対策をしています。10年前より毎日、ヨーグルトを提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の予定は決まっているが、そのつど御利用者の御希望に柔軟に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は散歩や体操を外で行い、体内のリズムを整え活動性のアップを図っております。又、御利用者の体調や希望を参考慮してゆっくり休息が取れるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は御利用者に手渡しや口に入れる等、確実に服用されたかの確認をし、状態に変化が現れた場合は速やかに看護師に報告し医師の指示を仰いでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事支援を含めて得意な分野で、お願いできそうな事をして頂き、感謝の気持ちを必ずお伝えしております。外食や、ホームでのお弁当など楽しんで頂ける事を御利用者と相談しつつ行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御利用者の希望に応じ、外食、買い物、ドライブ、行事への参加等、行っております。 又、家族旅行、ご自宅や親戚へも行って頂けるよう配慮しております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、ホームにて管理していますがご家族様の意向により一部の方に限りますが買い物時や外出時に所持、支払をしておられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を書いていただき御家族や知り合いにお出しする支援をしております。携帯電話も使用しておられる方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルにを基本として、ホーム内の飾りつけは御利用者と相談し御希望にあわせて職員と共に制作し季節感の感じられる工夫をしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや廊下に椅子を置き、居心地の良いくつろげる空間を作っております。仲良しの利用者様の会話の場所でもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベッドなど使い慣れたものをお持ち頂き、馴染みの空間で過ごしておられます。お孫さんの写真を貼って楽しみに話をして下さいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者一人一人の理解力を判断しつつ、不安なく生活できるように状況に応じてその都度環境設備に努めております。わかりやすいようにシンプルさも考慮しております。		